

食の魔女プロジェクト



廃棄野菜に、魔法をかける。

関西大学横山ゼミ食の魔女プロジェクト



#産地廃棄野菜問題解決 #産福学連携 #工賃とやりがい向上

目的

学生達がソーシャル・アントレプレナーシップを効果的に学ぶために、産地廃棄野菜問題と福祉の工賃問題に同時にアプローチするソーシャルビジネスを総合企画プロデュースした

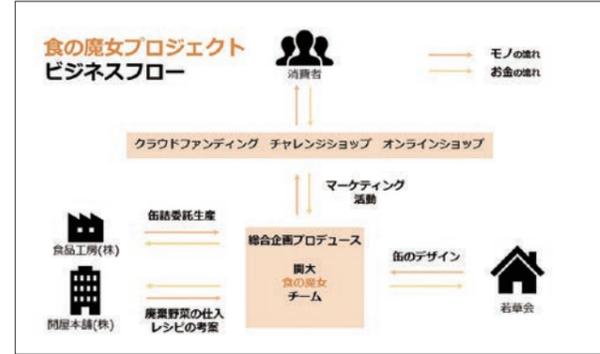


活動の概要

- 主な連携先
開屋本舗株式会社 / 食品工房株式会社 / 社会福祉法人若草会
- 活動地域
富田林市を中心に大阪府内
- 活動期間
2021年度～継続中
- 活動資金
地域連携活動に対する補助事業 / クラウドファンディング

連携にいたる経緯

ゼミ生たちが、①産地廃棄野菜問題、②非常食・保存食の廃棄問題、③障がい者の働き甲斐と工賃問題の3つの課題を解決するために、開屋本舗株式会社、食品工房株式会社、社会福祉法人若草会と協働して、「ちょっとリッチな海老芋ポタージュ」を共同開発することになった。



活動内容

専門演習を中心に、ゼミ生がソーシャル・アントレプレナーシップを効果的に学ぶために、文献研究とともに、地域の企業や福祉事業所と協働するソーシャルビジネスを企画して社会実装する取り組みを行った。具体的には、以下の活動内容で構成される。

- (1)産地廃棄野菜、非常食大量廃棄、就労継続支援B型事業所の社会課題調査
- (2)上記3つの社会課題にアプローチする新商品「ちょっとリッチな海老芋ポタージュ」スープ缶の企画立案
- (3)市場および競合分析
- (4)パートナー組織の開拓と協働
- (5)ビジネスモデルの構築と各種マーケティング施策(STP&4P)の最終決定
- (6)試作品開発と、資金調達のためのクラウドファンディング準備
- (7)クラウドファンディングの実施(9月16日～11月1日@GoodMorning)
- (8)新商品「ちょっとリッチな海老芋ポタージュ」スープ缶の製品化

上記のプロセスで、ゼミ生達は数え切れないほどの打ち合わせをパートナー組織と行ってきた。打ち合わせ方法は、オンライン・対面・メールの形を取り、特に製品コンセプトの創造やデザイン企画、生産量と価格については、きめ細やかな対話に基づき決定している。

活動の成果

- 新商品「ちょっとリッチな海老芋ポタージュ」スープ缶の完成
- クラウドファンディングで、多くの方々の共感と支援を獲得(106人から71万1,200円のご支援)
- 約100kgの廃棄予定野菜を活用でき、障がい者の方々へやりがいのあるお仕事をお願いできた

今後の課題・目標・展開の可能性

- 食の魔女プロジェクトのブラッシュアップと継続
- より根本的な社会課題解決に向けたソーシャルビジネスの企画立案と展開

連携先からの一言

いろいろな考えを持った方と協働することは私も社会人になってから経験をして大変だなと感じることが多かったのですが(今もですが)、それを学生のうちから経験する場があり、ひとつの形にされたみなさんの力はすごい!と思います。

(社会福祉法人若草会)

たくさんいろいろな学びがありました。

(開屋本舗株式会社)

商学部 教授 横山 恵子 Yokoyama Keiko



調査現場において、既存の枠を打破して新価値創造に果敢に取り組む人々と触れあう中、アントレプレナーシップという生き方に魅せられるようになり、「ソーシャル・アントレプレナーシップと協働」を研究・教育活動の中核に置く。一般社団法人そばくりラボ代表理事。

